

## 令和6年度（2024年度）第1回加住中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和6年（2024年）9月14日（土）9：30～12：40
場所	加住市民センター 多目的室
出席者	<p>参加者：安立、内田、内野、梅本、遠藤、大澤、小澤、川原、神田、黒木、斉藤、坂本、澤井（菊）、品田、鈴木（佐）、鈴木、須藤、瀬戸、高津、田村、長南、塚原、中村（彩）、中村（正）、中村（高）、中村（光）、野中、華山、細田、満田、諸星、谷津、寄元、龍満、渡部、和足</p> <p>高齢者あんしん相談センター加住：坂木 はちまるサポート加住：山下 第一層生活支援コーディネーター：今泉 日本遺産推進担当課長：塩澤 青少年若者課（子ども・若者育成支援センター）：永井、和田 地域づくり担当：新納、伊東、石川、松崎、徳永</p>
配布資料	令和6年度（2024年度）第1回加住中学校区地域づくり推進会議 資料

### 開会

事務局より挨拶、本日のスケジュールを確認。

### 1 地域づくり推進会議とは（市から説明）

〈説明内容〉

- ・ 地域づくり推進会議では、団体等の垣根を超えた新しい繋がりを生み出し、地域が主体的にできることを続けていく、そして増やしていくことを目指す。
- ・ 行政（市役所）も地域の一員として、一緒に進めていきたい。
- ・ 現在は全地域への事業展開に向けた「モデル試行」の段階であり、地域づくり推進基本方針の改定作業を行っている。
- ・ これまでどおりの進め方をする必要はなく、進め方に決まりはないので、地域の皆さんの意向に合わせて進めていきたい。

### 2 自己紹介

参加者より自己紹介を実施。

### 3 創価大学との連携について

前回の地域づくり準備会で多く頂いた「学生に参加してほしい」といった意見を踏まえ、市では各大学に呼びかけを行っている。その中で、創価大学法学部の授業である「まちづくり八王子フィールドワーク」と連携し、まちあるき等を通して加住地区のことを知ってもらいながら、「加住地区において学生・若者はどういう形で地域貢献できるだろうか」というテーマで学生に政策提案を考えていただいた。この授業の成果報告として、学生から提案内容について発表していただいた。

#### （1）A班

〈発表内容〉

- ・ 「加住地区における地域参加の動機づくり」をテーマに検討した。
- ・ 自然、環境、周辺施設の活用、コミュニティを加住地区の課題として捉えた。
- ・ 学生・若者が参加してみたいと思うようなイベントに焦点をあて、パブリックビューイングとスカベンジャー/トレジャーハントを行うことを提案する。

〈参加者からの質問・意見〉

- ・ どんな競技をパブリックビューイングするのか。単にイベントを開催するだけでは人は集まらないので、加住に関わるものが良いのではないか。
  - (A班) 加住地区や八王子市出身の選手が出場している競技などであれば、関心のあ  
る人がいるのではないかと思う。また、パブリックビューイングを実施する際には加  
住地区の特産品や地元企業等のブースを設け、加住地区をPRすることも考えてい  
る。

(2) B班

〈発表内容〉

- ・ 現状分析の結果、特に学生と町会・自治会との関わりが少ないことを課題として捉えた。
- ・ 学生に地域のイベント情報が伝わっていないことで学生の参加率が低いのではないかと  
いう仮説を立てた。
- ・ 大学と町会・自治会の交流を活性化させる新しい機関の設置を提案する。

〈参加者からの質問・意見〉

- ・ 地域に関わる最初のきっかけとして、家賃の割引や商品券など、学生側にお土産があるよ  
うな取組が地域の方から準備できると良いのかなと感じた。
- ・ 現状分析として実施した大学生へのアンケート調査結果で、町会・自治会に加入してい  
る方が1名いたが、自ら加入したのか。
  - (B班) 詳しく聞いてはいないが、恐らくそうだと思う。
- ・ 今日参加しているのも創価大学生だけなので、他の大学も関わっていただきたい。

(3) C班

〈発表内容〉

- ・ 地域住民と学生のつながる機会が少ないことを課題として捉えた。
- ・ この要因は、加住地区内に学生が活動できる組織がないことと、学生がイベントに参画す  
る機会が無い、もしくはイベントの情報を知らないことが挙げられる。
- ・ 加住地区周辺に特化した学生委員会を発足し、学生が主体となって地域の催しやイベン  
ト参画に努めることを提案する。

〈参加者からの質問・意見〉

- ・ 加住にある大学を選んで、加住に関わっていただいて本当にありがたい。提案を考える中  
で学生委員会のモデル事例などがあったら教えてほしい。
  - (C班) モデル事例は特にないが、学生が主体的に行動することが必要だと考えた。
- ・ 継続性が大事になってくると思うので、学生が参加してよかったと感じてもらえる、お土  
産になるような取組を地域でもしていきたい。
- ・ 地域の活動はメリットを目的としたものではなく、ボランティアとして続けてきている  
ということを知っていてほしい。
- ・ 今回様々な提案を発表していただいたが、この提案内容を自分たちで実際にやりたいと

思っているのか。もしやりたいと考えているのであれば、全力で応援するので、一緒に実現していきたい。放課後子ども教室では、学生さんにアルバイトとして参加してもらっている例もある。

- ・ 防災のことなどを考えると、町会・自治会もそうだが、会員でなくても情報共有できるような環境が必要だと感じている。
- ・ アプリなどで必要な人が誰でも情報を得られるような環境を整えられると良いと思う。

#### 4 グループトーク

地域づくりとはどういったものなのかを実感していただくことを目的として、前回の地域づくり準備会で多く話題にあがっていた3つのテーマについて、6グループに分かれてグループトークを行った。資料のとおり、事務局で用意した4つの問に沿って進行した。

〈グループトークの問〉

テーマ	内容
企業との連携	問① 企業とのつながりが強い加住とは、どんな地域になりますか？
	問② あなたはこれまで、企業とどのような連携・関わりがありましたか？（加住に限定しません）
	問③ あなたはこれまで、どのような時に加住の企業とつながりたいと思いましたか？
	問④ あなたやここにいる皆さんで、加住の企業とつながりをつくるためにできることを1人3つずつ挙げてください。（重複可）
自然の活用	問① 自然が活かされた加住とは、どんな地域になりますか？
	問② あなたはこれまで、加住の自然を見てどのように感じましたか？
	問③ あなたの記憶に残っている最高の自然環境・体験は何ですか？（加住に限定しません）
	問④ あなたやここにいる皆さんで、加住の自然を活かすためにできることを1人3つずつ挙げてください。（加住に限定しません）
歴史の活用	問① 歴史が活かされた加住とは、どんな地域になりますか？
	問② あなたはこれまで、どのような時に加住の歴史を感じましたか？
	問③ あなたはこれまで、何をきっかけに歴史を知りたいと思いましたか？（加住に限定しません）
	問④ あなたやここにいる皆さんで、加住の歴史を活かすためにできることを1人3つずつ挙げてください。（重複可）

〈グループトーク結果（発表内容）〉

グループ（テーマ）	内容
1 （企業）	問① <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今でも困ったときにつながりがあると非常に助けてくれているので、強いつながりは持っていた方がいい。</li> <li>・ 特に加住には大企業もあるので、つながりがあるといい。</li> </ul>
	問② <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 台風で避難所が開設された際に、さんあい介護医療院の看護師が避難所を</li> </ul>

	<p>訪問し、健康状態を確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合防災訓練で学生が必要な時に創価大学が 200 人ほど学生を連れてきてくれた。</li> </ul>
	<p>問③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の方がスマホの使い方がわからないときに若い方の力が欲しいと感じた。</li> </ul>
	<p>問④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>創価大学のポータルサイトに情報を提供する。</li> <li>創価大学のイベントホールで地域のイベントを実施する。</li> </ul>
2 (企業)	<p>問①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業と大学がコラボすることでお互いにPRできる</li> <li>専門知識や経済力がつく</li> </ul>
	<p>問②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フードバンクの提供</li> <li>飲食店</li> </ul>
	<p>問③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども食堂や食堂のボランティアの際に、学生委員会や学生の発信力があるといい</li> </ul>
	<p>問④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業を知る</li> <li>お互いに親しくなって熱意を伝える</li> </ul>
3 (自然)	<p>問①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加住には自然がたくさんあるので、それを活かしたイベントを実施すれば集客が見込める</li> </ul>
	<p>問②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元々住んでいたところは自然があまりなかったので、空気も違うし、動物も見かけたりして、新鮮に感じる</li> </ul>
	<p>問③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冬に高尾山に登った際に、景色がきれいで、八王子に住んでいなかったらできなかった体験だと思った</li> </ul>
	<p>問④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSにハッシュタグをつけて写真を投稿することで、多くの人に加住の良さを伝える</li> <li>川遊びなどのイベントを実施する</li> </ul>
4 (自然)	<p>問①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アスレチックなどの都会ではできない経験を提供できる</li> <li>ここでしか見られない在来種をアピールできる</li> <li>景観を活かせたら観光地化できる</li> </ul>
	<p>問②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔はカワセミも見れた</li> <li>心が休まる、すっきりする</li> <li>整備されているところと整備されていないところの差が目立つ</li> </ul>
	<p>問③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川で遊べたり、BBQしたり、何も気にせずに自然を楽しめた</li> <li>地域の伝統や文化を学ぶ機会を得られたり体験できたりすることがあると思うので、そういったことを活かしていけたらいい</li> </ul>
	<p>問④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加住の自然をいろんな人に広めたい</li> <li>落ちているごみを拾うといった些細なことでもいいので、できることをしていきたい</li> </ul>

5 (歴史)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史とは、教科書に載っているような歴史と、教科書には載っていない人の営みとの2つの解釈がある</li> <li>・ 大家さんが学生分の町会費を払っているアパートもあり、学生と地域が直接関わる機会があまりない</li> <li>・ 大澤さんのような加住の生き字引を見つけ、講演会や学生との交流を行うことで、将来的には加住の伝統行事に参加してもらう</li> <li>・ その前に、創価大学の見学ツアーを行う。見学ツアーに来所が困難な方のために社会福祉法人などの協力を得てバスを借りることもできるのではないか。さらには、大学で歴史の話を聞いたりパブリックビューイングを行ったりするといった大学を中心としたまちづくりが、加住ではできるのではないか。</li> </ul>
6 (歴史)	問① ・ 地形や水運といった自然に加え、滝山城などの歴史が活かされている
	問② ・ 道を歩いたときに戦国時代の遺構を感じる ・ 八王子の水の多くを占めている高月浄水場や水田がある ・ 古民家や戸吹の桂福寺といった古くからの建物がある
	問③ ・ 自治会などで昔の話を聞いたときに歴史を知り、理解していく
	問④ ・ すでに実施されている「ブラトブキ」の加住版 ・ 歴史に根差したグッズの販売 ・ ゲームの企画 ・ 留学生にもこの地域を知ってもらう ・ まずは自分たちが加住の歴史を知る

## 5 今後の進め方について

- ・ 事務局より、開催通知等の電子化（メールでの対応）についてご協力をお願いした。
- ・ 今年度の開催日程について共有した。

## 6 シェアの時間

- ・ グループトークの発表を聞いて、地域の方が大学を訪れる機会をつくるというのはいいと思う。キャンパスツアーをしたり、創価大学が出演している箱根駅伝をパブリックビューイングで応援してもらったり、地域のイベントを大学内で開催したり、大学で行っている市民講座に参加していただいたり、いろいろな可能性を感じた。
- ・ 八王子市市民活動支援センターが9月14日（土）に一日出張というかたちで道の駅八王子滝山に来ている。活動の始め方など、市民活動について全般的な相談に乗ったり、活動している方々と意見交換したりできる。
- ・ 10月6日（日）にはちおうじNPOフェスティバル2024を東京たま未来メッセとえきまえテラスで開催する。様々な市民活動団体が参加しているので覗いてみるだけでも楽しいと思う。
- ・ 10月6日（日）に2024パイロットウォークを開催する。障がいのある方と一緒に歩き、集まった参加費を障がい者施設に寄付する活動をしている。
- ・ 9月29日（日）に山車の曳き回しを戸吹から宮下にかけて行う。戸吹陸玖巻会では、山車の引き回しやお囃子などを通して、子どもたちに伝統文化を継承していくことを目的としている。加

住の企業に働きかけ、日清食品ホールディングスとエフピコ物流から協賛金を得ることができ、さらに創価大学からも協賛金を得て、抽選会の景品を用意した。また、大澤さんが生産している野菜も提供していただくなど、多くの方に協賛金をいただいてイベントを実施する。

- ・ 11月2日（土）、3日（日）に第20回加住市民センターまつりを開催する。文化展、カラオケ大会、焼きホタテの販売、加住小中学校少林寺拳法部による舞踊演武、歌謡ショー、高月米の販売や子どもたちが作った野菜の販売などを行う。特に、ホタテを焼く人を募集している。
- ・ 加住では加住地区住民協議会、加住地区町会・自治会連合会、滝山城跡文化協会の3団体を中心となって様々なことを行っている。
- ・ 加住小学校の6年生が総合の授業で地域自慢として自分の住んでいる町の素敵なところを考え、まとめたものを会場後方に貼り出している。学生さんが多く来てくださる機会でもあったので、この町にはこんなところがあるということをしりでも知っていただけたら有難い。

## 閉会

- ・ 創価大学をはじめ、学生さんに今後も推進会議に関わっていただけるようにしていきたい。地域と学生という構図ではなく、地域に関わっている若い人というマインドになっていくといい。
- ・ 創価大学の学生さんからの発表に対して、「加住エリアに住んでくれてありがとう」という地域の方から温かい言葉があった。加住エリアにこのような温かい人がいるということが、若い世代の方にとって地域に参加するインセンティブの一つになるのではないか。
- ・ 地域づくり推進基本方針の改定について、10月1日からパブリックコメントを実施する。推進会議の参加者には、後日個別に送付させていただく。

以上